

小学校6校、中学校2校を全4回で紹介します。

# 市内小中学校 英語教育の紹介

文部科学省では、2020年（平成32年）に向けて、小学校3年生から外国語活動を必修化し、5年生からは教科とするなどの、新たな英語教育を計画しています。グローバル化に対応できる人材の育成をめざし、英語によるコミュニケーション能力を養うことをねらいとしています。

市では、平成27年度より、県内で唯一の「英語教育強化地域拠点」として文部科学省の指定を受け、他の地域に先行して英語教育の研究開発に取り組んでいます。英語で気持ちや考えを伝えあえるような、より実践的な英語力を子どもたちが身につけられるよう、“Use English and Challenge the World!”（英語を使って世界に羽ばたこう！）を合言葉に、コミュニケーションを基盤に置いた言語活動の実践をめざしています。研究に取り組んでいる市内各校の英語授業の様子をご紹介します。

▼問い合わせ先 学校教育課 学校教育係



## 水明小学校

英語の授業はすべて英語で行われますが、水明小学校では先生たちの思いが生かされ、子どもたち全員が理解できるように授業を進めています。難しい英語は簡単な英語に言い換えたり、意味を体で表現しながら英語を教えています。

### Big or Small?

授業の中で、先生たちが体を使って表現するのを見て、子どもたちはたくさんの形容詞の意味を学んでいます。「大きい (big)」「小さい (small)」「美しい (beautiful)」といった言葉を、英語で表現することができるようになっています。先生も児童も、楽しみながら英語を使えるようになっています。

## 美南ガ丘小学校

市内で一番大きな美南ガ丘小学校は、学年も4クラスずつあり、学年ごとの先生たちが連携して取り組んでいます。どのクラスもALTの先生との授業を楽しみにしています。その気持ちに応えるように、ALTの先生も教材研究に励んでいます。

### 校長先生とも英会話！

英語教室は、椅子だけが置いてある比較的自由なスペースで、授業では誰とでもお話ができるようになっています。教室内に貼られているたくさんの英語をヒントにしながら、子どもたちは会話を楽しんでいます。時には、校内をまわっていた校長先生にも質問し、会話の練習を楽しんでいます。



## 「応急仮設住宅」の 建設候補地を決定

市では、この度、地震や浅間山の噴火等の大規模災害の際に必要な「応急仮設住宅」の建設候補地を決定しました。

「応急仮設住宅」とは、災害救助法に基づき、住宅が全壊や流失するなどして住む家が無くなった住民に対して建設する仮設の住宅のことです。

「応急仮設住宅」の建設候補地は、市有地の南城公園、乙女湖公園、大手門公園、総合運動場、市営野球場、御影グラウンド、小中学校の校庭、あわせて県有地である長野県農業大学のグラウンド等も県の同意を得て加え、市内全域で14か所、11・5ヘクタールとなります。

また、この建設候補地には、最大で約1600戸の住宅の建設を見込んでいます。

大規模災害の際は、発生した場所や規模により、候補地の中から適切な場所を選択し、建設することになります。

▼問い合わせ先

総務課 防災係

